



俺はリムルⅡテンペスト。


三上悟として日本でサラリーマンしていたが、通り魔に刺され死亡し、この世界にスライムとして転生した。

それからは色々あって、魔物たちが平和に暮らせる国「ジュラ・テンペスト連邦国の盟主になったりした。その間も、運命の人であるシズさんと出会いこの姿を得たり、

運命の人が育てていた教え子達を救ったりしながら、第二の人生を楽しんでいる。

そんな折、テンペストと交流のあるブルムンド王国、その国にいる、自由組合のギルド長のフューズから、連絡が入った。なんでも、公にしづらい案件があり、俺に内々に伝えたいという事らしい。


一応、俺はテンペストの盟主であるわけで、その俺をわざわざ呼び出すなんて、よほどの事に違いない。俺は大急ぎで準備し、フューズの指定した宿へと向かう事となったのだ。



リムル殿
秘密裏に大規模な人身売買組織が
動いているようで
心当たりはありませんか？

そういえば…

つい最近の出来事だ。
俺が教師を務める、イングラシア王国自由学園の生徒達が、課外学習中に野盗に襲われる事件があった。
あの時の野盗共は身代金が目当てのようだったが、野盗の背後に何かいる可能性は否定できない。



その件と関連があるかはわかりませんが…
どうやら性奴隷目的で異世界人を
手あたり次第に召喚したり
攫ったりしてる組織があるようです

はあっ!?
性奴隷だっ!?

召喚された異世界人の寿命は短い事が多い。
長命でない分、性奴隷としては使い勝手が良いのだそうだ。
聞いていてふつつつと怒りが湧いてくる。異世界人をそんな事に使うなんて、
これを放置しておけば、いずれ俺の生徒達にも被害が出るかもしれない。

なるほど、確かに公に
出来る話ではないね
ありがとうフューズ君
こちらでも調査を進めてみるよ

よろしくお願ひします
何しろ敵は狡猾で中々尻尾を
掴ませませんからね…
こちらでは手の打ちようが
無かったんです

まんまとフューズに利用される形となったが、こればかりは仕方ない。
むしろこの情報を提供してくれた事に感謝したい。
俺の生徒達が捕まり、クロエが、アリスが、性奴隷になるなんて、想像するだけでも腹が立つ。
そんな未来は絶対に回避しなければならぬ。俺は宿に戻り、作戦会議を開く事にした。



解。潜入捜査、もとい囮捜査が
最も成功率が高いと考えられます。

というわけで
どうやって調査すべきかな？
大賢者、何か良いアイデアはあるか？

俺が話しかけた相手は、
俺が転生した時から持っているスキル、大賢者だ。
俺の疑問に回答してくれる人工知能のようなスキルだが、
正直俺より遥かに優秀で助かっている。

なるほど、囮捜査か！
それなら内部に潜り込めるな！
さっすが大賢者！



…でも、誰がそんな
危険な事をするか、だな…

人身売買組織に囮として潜り込むなら、
その被害者として潜り込むしかない。
しかし被害者として潜り込むという事は…
その被害を受けるという事に他ならない。
シユナ？ シオン？ いやダメだ。
あいつらをそんな目に合わせるわけにはいかない。

解。一人だけ
適任者がいます。

適任者？
一体誰…



そうやって大賢者は突然、俺のスキルである暴食者を使い、俺の着ていた服を収納した。目の前の姿見には、本来性別が無いはずの俺の裸が…なぜか小ぶりなおっぱいと割れ目付きで映し出されている。いきなりの事に混乱し、俺は素っ頓狂な声を上げて固まってしまった。

うわぁっ!!?!?
いきなり
何するんだよっ!!?!?

解。マスターの
目の前に写る
その方が適任者です。

へっ?!?
お、俺えっ!!?!?

俺はもともと無性だが、シズさんと出会いこの姿を得ているので、基本的には女性的な外見になっている。
また、この体はスライムであり、魔素でいくらかでも変形可能なので、より女性型にも出来る。
つまり、生まれつき女性である者が困役になって犯されるより、俺が犯される方がマシというのが、大賢者の判断というわけだ。

じ
そ、それにしても
この姿は…

俺は鏡に映る自分の姿をまじまじと見つめる。
…実にエロい。未成熟なボディとはいえ
可愛らしい顔との相性が最高じゃないか！
こんな可愛い娘が、囹捜査で性奴隷としてあんな事やこんな事に…。
って、何考えてんだ！ この鏡の中の女の子は俺だぞ！！



しかしこの見た目を活かすのは
シズさんに悪い気はするが…

マスターは現在
任務に最適な女性体を
保有しています。
自覚が必要と判断致します。

ひゃっ!
な、なんだ?!

スライム!?
大賢者さん?!





スライムはその形状から
全身を愛撫することが
可能なので、
女性体の初体験には
最適なプレイと
判断しました。



マスターが興奮し
期待している事は
理解しています。

そういう話ではなく…
ってスライムが絡まって…
敏感な場所にピリツとした
刺激が…♡

な、何言ってる…
こんな特殊性癖に
期待なんか…
んっ…♡



否。マスターが生前
保有していたデータの中に
TS物やスライム物が
あった事は把握済みです。

ちよっ！大賢者さん？！
さらっと人の
性癖暴露しないでっ？！

性的興奮の高まりを感知。
女性性感帯の正常稼働を確認。
これより内部への侵入を開始します。

な、内部ってまさかっ？！





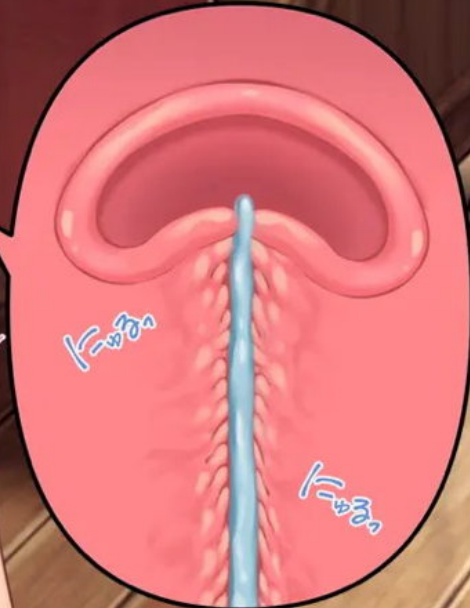
解。女性の快楽は男性の
 数倍とも言われています。
 引き続き外性器の
 愛撫も続行します。



否。マスターの本心は
 絶頂までの継続を
 望んでおります。

ひっ!? やめっ!!
 あああっ!!

そ、そんな事?!
 あっ?!
 な、何か来る?!
 ひっ!!





告。マスターの絶頂を確認。

はあっ... はあっ...



こうして俺は、女性体での初めての絶頂を味わってしまったのだ。想像以上に女性の絶頂気持ち良すぎだろ...。こんな感度で囀捜査して大丈夫なのか？でも、もっと色々な事をしてみたいという気持ちがあるのは事実で...。そして大賢者がそんな俺の本音を見逃すはずもないわけで...

告。この程度で絶頂し
動けなくなるようでは
捜査に支障をきたします。

：いやいや、この程度って
めちやくちや感度高いん
だけどこの体：

肉体的感度の違いもありますが、
童貞だった事による
経験不足も大きな要因です。

うっ？

絶頂で腰が抜けた状態になっている俺に対して、大賢者が容赦なくダメ出しをしてくる。
大賢者さん、俺のスキルだよな？ なんか厳しすぎない？ 童貞のくだりいらなくない??

作戦成功のため、マスターには
性的快楽に慣れて頂く必要があります。
それがマスターの希望でもある事も
承知しています。

うっ…そ、それは
そうだけど…

それでは更なる
性的行為に
移行いたします。

うええええー!!?
こ、これって
スクール水着…

是。マスターが生前
保有していたデータの
中にスクール水着モノが
あった事は把握済みです。

大賢者さん…何度も人の性癖
暴露するのやめて?
まあでも、確かに似合ってるな…

マスターの性的興奮を感知。
分身体にて行為を実行します。

分身体? どういう事だろう。
そんな事を考えた直後、
俺の目の前に突然
白い光が輝いた。



め、目の前に…
俺っ!?

是。マスターの
分身体です。

目の前に現れた美少女…俺の分身体が、
いきなり俺の股間に指を伸ばしてくる。
今の自分の姿とわかってるもの、
目の前に現れると、美少女の存在感というか…。
何かいい匂いするし…。
やばい、これはドキドキする…。





性的興奮を確認。
それでは愛撫を実行します。

ちよ、まっ…あっ！
あああああっ！！

目の前の美少女が伸ばす指。
そのすらりとした細い指が、
俺の割れ目をなぞる。
目の前の美少女って、実質俺だよな??
俺が俺に愛撫されてるのに、
なんでこんなにドキドキするんだ??





解。雰囲気による相乗効果で
感度が高まっている状態です。
これより直接接触による
愛撫を実行します。

ちよ、直接って！
あああっ！！



目の前の美少女は俺のスクール水着をずらし、
割れ目に直接指を這わせた。
ひんやりとした指先の、キメの細かい肌の感触が、
俺の性感帯を通して伝わってくる。
ダメだ：気持ち良すぎて抵抗出来ない。
「もっともっと愛撫して欲しい」と願ってしまう。



了。それではアイテムを
使用し愛撫を続行します。

転生前の俺でも
経験したことないのに
大賢者さんのテク
上手すぎて……
あぁっ♡♡

だから人の思考を勝手に……
ひっ!!?!?
びんピンクローター!!?
あっ!!

是。マスターが生前
保有していたデータの中に、
玩具系同人誌があった事は
学習済みです。

ローターをクリトリスに当てるだけなのにこんなに気持ちいいの!?
俺が好きな同人誌にあった、ローター着けて外出とか絶対無理...。
ヤバイヤバイヤバイヤバイ...頭が真っ白になる...流石に我慢できない...

ひっ!!
あああああつっつっ!!

はあ

はあ

はあ

はあ

ガガガガガガ
ガガガガガガ

はあ

はあ

はあ

はぁっっっ♡はぁっっっ♡

マスターの絶頂を確認。

それでは次の
行為を実行します。

ちゅ、ちゅとっど...
まだイッたばかりなのに...♡
待っっ!



実戦では待てと言われても
待ってはくれません。
これも訓練です。

って…大賢者さん…
なんですかその巨大な…

解。巨大デイルドです。
成人男性の性器と呼ばれる
モノの形を模したもの…

そ、それはわかってるけど…!!
そんなの流石に入らなっ…!!



否。マスターは
スライムです。
難なく挿入ります。

このまま押し込みます。

待って...!!
無理無理無理無理!!
こんなの絶対...!!

あひっ♡
さ、先っちょがっ...!!



ひぎっつー!!
がっ!!



挿入を確認。

強烈な圧迫感。ほ、本当に飲み込んでしまった…。
でも痛覚無効で痛みは無く、
ただただ快樂のみが俺に伝わってくる。
ジンジンと痺れるような快樂。
これでもし、デイルドを動かされでもしたら…。

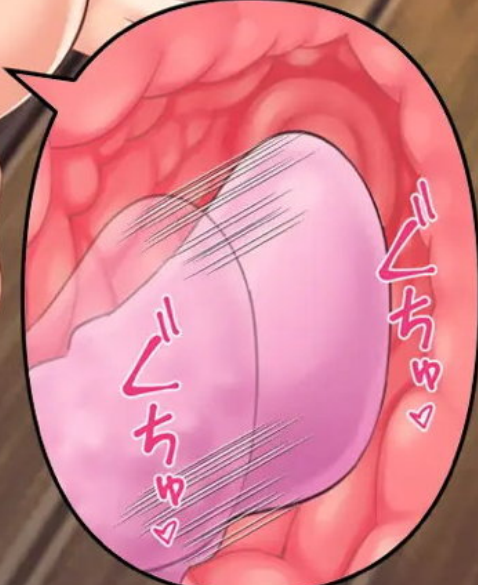




了。それでは
ピストンを開始します。

待つて…!! こんなん!!
あああああうっうっ!!

極太デイルドを突っ込まれて、
お腹の中がパンパンになってるのに、
なんでこんなにも気持ちいいんだ??
女の肉体は感度が高いからか?
それとも目の前の美少女に犯されているからか??
男の感情を持ちながらも、
女の身体から得られる快感が理性を壊していく。





ダメツッ: イクツッ♡
イクウウウツツ♡♡♡♡

ゴクゴク

ゴクゴク

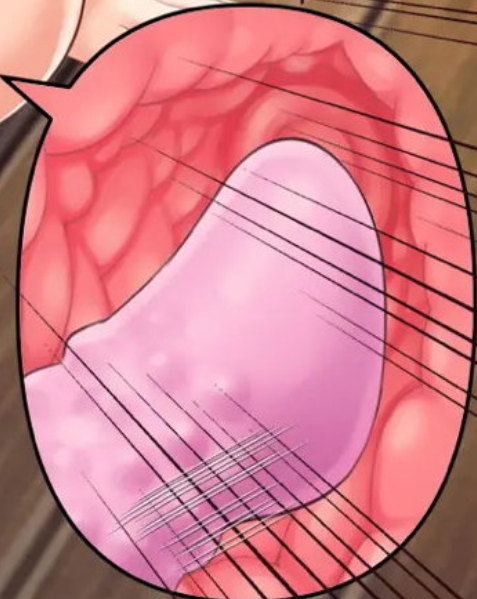
んんん

あぁあ

んんん

んんん♡

んんん♡





マスターの
絶頂を確認。

はあっ…♡はあっ…♡
うぐっ…

女の快感がこんなのだなんて…
気持ち良すぎて意識が飛ぶかと思った…。
スライムプレイも想像以上だったが、
玩具に犯されるのが、こんなにも気持ちいいなんて。
俺は自分の体に突き刺さったままの
異物を茫然と眺めながら、絶頂の余韻に浸った。





これにて練習を終了します。
次は冴捜査本番です。

あ、ああ……
何とか耐えて早めに
解決しなきゃな……

正直不安ではあるが、未経験である事と経験済みである事の違いは大きい。
これで捜査中に犯される事があっても、何とか耐えて乗り切る事は出来るだろう……多分。
可能ならもう少し練習しておきたい所だが、ゆっくりして俺の生徒に被害が出る事だけは避けたい。
俺は震える体で何とか準備を済ませ、人攫いの賊が出るという噂の峠へと向かった。



大賢者の提案により、俺は自由学園の制服を着て、ギルドで薬草採取の依頼を受ける形で峠へと向かった。当然、その情報は人攫いにも伝わっているようで、薬草採取を開始してすぐに俺は山賊の集団に襲われた。捕まる事が目的とは言え、無抵抗で捕まっては怪しまれてしまう。俺は2〜3人の山賊を適当に倒した後、山賊の攻撃をわざと受け、俺はその場に伏せるように倒れた。

きやあつ！

ちっ…
手間かけさせやがって…
そいつは痺れ薬だよ

流石は自由学園の
生徒なだけあるな…
くっそ、好きなように
ボコリやがってよ

それにしても
コイツは上玉だな
これなら変態相手に
高く売れそうだぜ！

オラ!!
死にたくなければ
両足広げてこっちに
ケツ向ける!!

う??
は、はい??

おいおい、小柄な
体格のくせに
メスの身体
してるじゃねえか

この色気の無い
下着がそそり
やがるぜ…
ごくり…

俺、本当に山賊に襲われてるんだよな…?
こんな美少女が、山賊に…。
この状況、まるでエロ漫画だな…

ぎゅん



それにしても
いい顔してるじゃねえか
俺直々に
可愛がつてやろうから？

ひっ!!
やめっ!!
触らないでっ!!

へへっ!!
可愛らしい声で
喚きやがる

お頭の愛撫で
鳴かなかった女は
いねえからな?

かい
かい

びゅん

無骨な指が下着越しに俺の割れ目を乱暴に愛撫する。
どう考えても大賢者の愛撫の方が気持ちいい。
でも、俺みたいな美少女が、こんな山賊に!!
そう思うとこれはこれで興奮する。



へっ…それじゃあ
中身の確認と行くか!!

ひっ!?
キヤアツツ!!
み、見ないでっ!!

おおー!!
綺麗な割れ目!!

毛も生えていない
真正正銘の
処女まんこじゃねえか!

パンツを力任せに剥ぎ取られ、
俺のおまんこが山賊達に晒される。
この姿勢でこれは流石に恥ずかしい…
流石に隠したくなってしまうが、我慢だ…。

「姐女かどうか
念のため確かめて
やるとするかあ？」

「きゃあっ!!
そ、そんな所
広げないでッ!!
やめてえっ!!」

「うおっ…
綺麗なピンク色…!!
やつべ…
勃起してきた…」

「膜は… あった!
こいつ姐女ですぜ頭あ!!」



山賊ども、人の体だと思って好き勝手に
広げて言いたい放題言ってるやがる…。
でもこれ、何度も読んだエロ漫画と
ほとんど同じ流れだよな…。
ヤバイ… 興奮する…。



「あっ」

へへっ…こんなの見たら
我慢できるわけねえよな？
俺が味見してやる…

ひっ…やめっ…
そんなの挿入らないっ…

うおおお!!
こんな美少女の初体験が
頭の巨根とか!!

ずるいですぜ頭あ!
後で俺達にも
やらせて下さいよ!!

こいつ…もうギンギンに勃起してるじゃないか…!!
しかもデカいし…!!
こんな極悪チンポを俺にねじ込むつもりなのか!?
うう…気持ちとは裏腹に子宮がうずうずする…。

ギン

ギン

☆

ひん

ん

ん



いくぞつ!! オラつ!!

ひきつーひきつー

ヒビク

ヒビク

ヒビク

ヒビク

ヒビク

ヒビク



流石に処女だけあって
締め付けが最高だぜ!!

やめっ…
ぬ、抜いてっ…
いざっ…!!

へへっ…
レイプに歪む
顔も最高に
可愛いじゃねえか

あーあ、頭に犯されたら
もうガバガバ確定だな
残念だったなお嬢ちゃん

捜査のためとはいえ、本当に
山賊に犯されてしまった…
俺、生前は男だったのに…
でも…なんだろうこの感覚…。

パンッ

パンッ

ズクン

ズクン



しかもこいつのまんこめちやくちや絡みついてきやがるぜ!!!
名器すぎる!!

ひびく... やめ...
あああああ!!!

マジっすか!
こんな美少女で
処女で名器とか...
やべえ...

ああ、俺も早く
犯してえなあ...
たまんねえわ...
我慢できねえ...

こんなに酷い目にあってるのに、
犯されて晒し者になってるのに...
気持ちいい。とんでもなく気持ちいい...
なんだこれ... 俺、おかしくなっちゃったのか...?



くそっ…
締め付け我慢できねえ…
そんなに俺の子種が
欲しけりゃくれてやる!!

ひっ!! やめっ…!!
膣中は… いやあっ!!

へへっ… こんな可愛い子が
俺達山賊に孕まされるとか
マジで興奮するよな

やっぱり綺麗なモノを
汚す時が一番興奮するぜ!

俺の子宮の中に、あんな汚らしい
山賊の精液が注ぎ込まれるのか?
元男の俺にとっては、めちゃうくちゃ
気持ち悪い行為… のはずなのに、期待してる。
ヤバイ… ヤバイヤバイヤバイヤバイ…
何か来る…!!



こいつら...
めちやくちや搾り
取ってきやがる...!!

やめ...
中を出さないで...
あ...あああ...!!

おい、こいつ
いつてねえか?
中出しされて
いっただろ?

処女なのにレイプされて
中出しでイクとか
変態かよ...

こいつら好き勝手言いやがって...
こんなの我慢できるわけないだろ...!!
なんでこんなに気持ちいいんだ...!!
こんな汚い精液が注ぎ込まれるのに...!!
あ...ダメだ...またイク...
こんなのもう耐えきれない...!



ふう…
根こそぎ搾り取られたぜ…
山賊の俺から搾り取るとは大したもんだ

うぐっ…
はあっ… はあっ…

いや、こんなの見せられたら
我慢できねえつすよ頭あ!

頼む頭!
俺達にもやらせて
くださいよ!!

…山賊に犯されて、中出しされて、
絶頂してしまった…。
こんな酷い目にあってるのに、
こんなに気持ちいいなんて…。
ヤバっ… 精液が溢れてくる…。

クリンクリン

はんぱんぱん

はんぱんぱん

はんぱんぱん

はんぱんぱん

はんぱんぱん



よおし、この女は
おまえたちにくれてやる
好きにしろっ！

さつすがら
頭は話がわかるっ！

よし、今度は
俺達のチンポで
イカせてやつからな？

いつかどこかで見たような流れだが、
こんな定番な流れに期待してしまってる俺がいる。
まだまだ犯されるんだ。
1回中出しされてイッただけでは許されないんだ。
俺は笑みがこぼれそうになるのを、必死に我慢した。

さわらないで…
お願い、やめて…



ふう：
ヤツたヤツた：
搾り取られたわ：

こいつのマンコ
めちやくちや
絡みついて来たよな？
ヤバかったな

中にスライムでも
入ってんじゃねえの？
ってくらい
絡みつきだつたな

う？
あ？

めちやくちやヤラれた：
総勢10人：きつちり10回イキました。
子宮も精液でタップタプになって：
なんでこんなに気持ちいいんだろう…。
俺は至福の満足感を味わいながら、
盛り上がる山賊達を後目に軽く意識を休ませた。



まったく、売り物なんだから
汁まみれにすんじゃねえよ
ほら、綺麗になったか？

は、はいっ…

俺は山賊の命令で、川で水浴びをして全身の精液を洗い流していた。
それでも染み込んだ精液の匂いは、完全には消えていない。
そして、生前に散々嗅ぎなれたはずのその匂いが、俺を発情させていく。

しかし、勢いに任せて
輪姦しちゃったが
こうなると変態向けの
オークションにしか
出せねえなあ

そういう事なら徹底的に
変態向けに調教しては
どうですかい？

なるほど…
確かにそれも
アリだな

山賊達は何かよからぬ相談をしている。しかし、変態向けの調教とは何なのか。
俺はこれからどんな目に遭うのだろうか。期待で思わず興奮してしまう。

ほら、こっちに尻向けろ
グズグズすんな

へへっ、あれだけ犯されたら
流石に従順になったな

は、はい？！

もう抵抗する気も無いってか？
それとも気持ち良すぎて
期待してるとか？

はい、気持ち良すぎて期待してます。
この体だと何されても気持ちいいんだよな…。
美少女って相手が何であれ、
それだけで成り立つからずるいな。
って、今は俺の体なんだけど。

おい、魔獣！
出番だぞ！！

ひっ…！？

グルルルッ…

大賢者…
こいつはランガと同じ
牙狼族じゃないのか？

是。はぐれた牙狼族が
術式によって洗脳されています。
今は馬車馬及び戦闘力として
盗賊に利用されているようです。

こいつら牙狼族まで…
後で解放してやらなきゃな…



ほら、コイツの
マンコを舐めろ

ハッ…ハッ…
ジュルツ…

きやあっ!?
や、やめっ…!!

いいぞー!
もつとやれー!!

完全に見世物にされてる。
流石は山賊、やる事がいちいちゲスい。
こんな屈辱的な状況なのに、
俺の体はきっちり興奮してしまう。

ジュルツ…
ジュルツ…

へへっ、あんな魔獣に
舐められてんのに
可愛い声出してやがる…

こんなに可愛いのに
魔獣相手に
興奮する変態とか
マジたまんねえな…

ひっ…やめっ…
ああああっっっ!!

犯され過ぎて少しヒリヒリしたおまんこを、
ザラついた舌で舐められると…これはヤバい。
傷口をこすられる時の痛みが、
まるで全て快楽に変わったかのような…
こんなの我慢できるはずないだろ…。

よーし
こんなもんで
いいだろう

っ…
はあっ… はあっ…

ハッ… ハッ…
ジュルッ…

うっわ、愛液垂らし
過ぎだろコイツ



ほま
ほま

ハッハッ

ロロ

ハッ

ハッハッ

いや、これ子宮から溢れてきた
アンタらの精液の方が多いんだけど…
まあ気持ち良かったし、
愛液も結構混ざってるから、
ある意味正解だけど…

よしここからが本番だ！
いいぞ、やれ！！

グルウウウウツツツ！！

ひっ！！
きやあつー！！

いいぞー！！
やれー！！！！
犯せー！！！！

おっ

おっ

おっ

ハッ
ハッ
ハッ

ほっ
ほっ

え？ 嘘だろ？ こいつら本気で、
俺を魔獣に犯させようとしてるのか！？
それに俺：期待してる…？
相手は人間じゃないのに…：そんな事…。



グルウウウウツツツ!!

ハッハッハッ

ハッ

ハッ

ハッハッハッ

ズンズンズン

ハッハッハッ

あがっ!!!



ガウツ!! ガウツ!! ガウツ!!

ひっ!! ぐっ!!
あがっ!!

うわっ…
すっげえ腰振り…
ありや人間には
マネできんわ

あんなにやられたら
流石に壊れるんじゃねえの?

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

とちやっ
とちやっ

ぐっ…こ、これはヤバい…
マジで普通の体だったら壊されてる。
でも俺は壊れない。スライムだから。
それでもこの刺激は…流石に強烈すぎる。



クウウウウン!!

おお、もう出したのか?
思ったより早かったな

ひっ!! えっ...?
あっ...

へへっ、お前ら知らねえのか?
これからが本番だぜ?

?

ハッハッ

ハッハッ

ふん

ふん

ふん

嘘：もう出したのか？
山賊達より圧倒的に早いぞ？
魔獣って早漏なのか？
でも、これからが本番って...
どういう意味だ？
なんか嫌な予感が...



こいつらの射精は
10分以上続くんだぜ？
そんな事されたら、
どうなっちゃうかねえ？
へへっ

ひえっ…？
嘘っ…そんなっ…
ああああっ！！

マジかよ牙狼族の
射精えげつねえな…

ハッ
ハッ
ハッ
ハッ

くそっ…
すごい量の精液が流れ込んでくる…。
ヤバイ、軽くイッた…。
しかも牙狼族のチンポがパンパンに膨らんで…
どんどん子宮に溜まって…!!



ひっ…
な、なんでこんなに
膨らんでっ…!

ほらほら、頑張って
魔獣の子種を全部
絞り取るんだぞ…!

あああああつっつっ!!

解。確実に妊娠させる為に
精液の逃げ場を塞ぐためです。

うっわ、あの顔…
もう限界って感じの
顔じゃんよ…

あんだけ
ぐしゃぐしゃの顔でも
可愛いってすげえよな…

ヤバイヤバイ
ヤバイヤバイ…!!
もう俺…!!





ひっ!! あっ!!
ああああああっ!!

アッアッアッ
アッアッアッ
アッアッアッ

アッアッアッ

アッアッアッ



数分後…。

ようやく終わったか
どうだ？
気持ち良かっただろ？

はあっ…はあっ…
うっ…

ぐっ…あっ…

うっわ、メス穴が
ぽっかり開いてやがる…
エロツ…

くっ…

くっ…

くっ…

くっ…

くっ…

ハッ
ハッ
ハッ
ハッ

はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ

ヒクヒク♡

はぁっ

くそっ… 射精中に何回イッたか…
悔しいがめちやくちや気持ち良かった…
相手は人間じゃないのに…
こんなにイッてしまうなんて… 俺… 俺…



告。精神に過大な負荷がかかっています。
しばらくオートモードに移行します。

悪い、大賢者…
少し任せた…

そうして俺は、壊れるギリギリの所で、
大賢者に肉体の主導権を任せて
眠りにつく事にした。
魔獣相手にこんなにも興奮するなんて…
予想すらしていなかった自分の
メスとしての才能に戸惑いを感じつつも、
快楽の余韻で至福に包まれた体のまま、
その意識を暗転させていくのだった。

ふん、
♡ビクッ♡

♡ビクッ♡

♡ビクッ♡…



俺がオートモードから回復した時、そこはもう奴隷市場の控室だった。
俺はオークション用のバニースーツに着替えさせられて、その出番を待っている状態だった。

マスター、ご気分は
いかがですか？

ありがとう大賢者
もう大丈夫だ

了。では肉体の
主導権を
お返します。

そんなやり取りをしていた時の事だった。

よし、次はお前の番だ！
ほら、こっちに来い！

キャッ…!!

俺は競り人に腕を掴まれ、無理やりステージに引っ張り出される。
そこでポールに両手と片足を拘束され、Y字バランスのようなポーズで固定される。
そして、競り人の合図とともに、俺のオークションがスタートするのだった。

こちらはイングラシア王国
自由学園の生徒であり、
しかも異種族適正ありの
超レアモノとなっています！

く？！

おおっ…!!
これは美しい…!!

素晴らしい…
上玉だ…!!

競り人が俺の紹介をすると、客からは二斉に感嘆の声があがる。
例えこういう場であっても、美少女扱いされてチャホヤされるのは悪くない。
自尊心が満たされる。しかもこんな恥ずかしいポーズで、
客からの性欲に満ちた視線に晒されていると、ドキドキしてしまう。

異種族適正ありですが
ご覧の通り素晴らしい外見です
もちろんこちらにも！

わっ!!
ごめんなさー!!

おおっ!
綺麗な割れ目
じゃないかっ!!

しかもツルツルで…
じつにワシ好みじゃぞい…!!

キラッ

競り人は俺のバニースーツをずらし、割れ目を露出させる。
客は二斉に歓声を上げて、俺の割れ目に視線を集中させる。
コレはやばい、子宮がムズムズしてきた…。

それでは少し開いて
お見せいたしましょう！

キャアツッ！？
やめっ…!!

なんと美しい…
ピンク色じゃないか…!!

こんな美少女が
異種族適正ありとは…
中々みられるものじゃ
ないぞ！

くはぁ♡

いきなりオマンコを広げられ、俺は小さな悲鳴を上げてしまう。
俺の可愛らしい声が会場中に響き、俺の可愛らしいオマンコが会場中に晒される。
会場の熱気がどんどん高まっていくのに比例し、俺の興奮も少しずつ高まっている。

すでに処女ではありませんが
ご覧下さい
このように指に絡みつく
名器となっています！

ひっ！ やめっ…!!
あああああっ!!

ひん
ん

ん
ん

おおっ…!!
処女であつたならワシが
犯したかつたものよ…!!

いやいや、それでも
あの外見で異種族と
交わる所が見れるなら…!!

にゅん
にゅん

競り人はそのまま俺の膣口に指を突っ込んで、強引にかき回してくる。
拘束されている俺は手も足も出せず、
されるがままに愛撫され、悲鳴を上げる事しか出来ない。
でも…こんな大勢に見られながら愛撫されるの、めっちゃくちゃ気持ちいい…。

御覧の通り濡れやすい体質ですし
反応もとても良く、見世物としては
最高のレアモノとなっております！

はあっ… はあっ…
な、何を勝手な事をっ…

確かに、あの反応を
見ているだけで
勃起してしまうな…

しかも少し反抗的な所も中々…
あのじゃじゃ馬を馴らして
魔物のペニスを請わせたいものよ…

山賊も結構なゲスだったが、
こいつらも負けず劣らずにゲスな事を言っている。
しかし、そんなゲスな言葉を投げかけられているのに、
俺の体は愛液を垂れ流して反応してしまう。



それでは何か
質問はございますか？

はあっ…
はあっ…
はあっ…

いくら上玉でも
ちやんと異種族が相手に
出来る事を証明してもらわねば
値が付けれられぬぞ！

上玉である事は良くわかった
しかしそんな小さい体で
本当に異種族適正が高いと
言えるのか？

そうだそうだ
うちにはオークやベガサスの
魔獣奴隷もいるのだぞ？
本当に相手が務まるのか？

なるほど、そのご心配は
ごもつともです

それならば、牙狼族をも
飲み込んだ柔軟性を
お見せしましょう

ひっ…!?
ま、まさかっ…
やめ…

ほう、牙狼族相手とな?
その小さな体で
あれを飲み込んだのか…

それに膣口にあてがったその拳
これから何をする気なのか…
興味があるぞ…!

では…

こいつまさか、俺のオマンコにその腕を
突っ込むつもりじゃないだろうな?
流石に牙狼族のチンポや山賊のチンポとは
比較にならないぞ? お、おい…本当に…

はあ

はあ

おぎゃっ

ぶに



さっさと早く!

ヒキヒキ

ヒキヒキ

ヒキヒキ

ズルズル

ヒキヒキ

御覧の通り
私の拳でも飲み込む
柔軟な性器となっております

ひっ…はっ…
かはっ…!!

ほう、これはすごい!
おまんこがみっちり
広がっているではないか!

あの可愛らしい
外見とのギャップが
実にそそのるのう…

牙狼族の膨らんだペニスよりもさらに大きい拳が、
俺の膣内を圧迫する。ヤバい、これはヤバい。
これは呼吸で精一杯になってしまう。



子宮内の深度も包み込みも
上々です。どうですか？
これならペガサスであつても
難なく飲み込めるでしょう？

いぎっ……やめっ……
しきゅう……
いじらないでっ……!!

確かに！
子宮まで使える娘は
中々レアだぞ!!

異種族用で無ければ
このワシが直接子宮に
種付けしてやったものを……

競り人の無骨な指先が俺の子宮壁をこすりあげるたび
脳天まで走る強烈な刺激が俺を襲う。
ヤバい、子宮がこんなに気持ちいいなんて……
もう我慢できない……



これで絶頂出来る変態女です
それではオークションを
スタートします
最初は金貨千枚から!

ひゅっ!!
うぐっ!!

2千枚だ!!

ワシは
3千枚出すぞ!!

ええい!!
1万枚だ!!

俺の膣には競り人の腕が突き刺さったまま
晒し者にされながら、競りがスタートした。
俺は絶頂の余韻に浸りながら、自分の値段が
上がっていく様子を他人事のように聞いていた。



これ以上は
居ませんね？

それでは落札は
カザック子爵となりました！
おめでとございます！

クッククック…
良い玩具が
手に入ったわ

んっ…
あっ…

そして競りが終わり、俺はいかにもスケベな顔をした
貴族の男に買い取られた。
競り人が俺の膣から腕を引き抜くと、
俺の膣は物欲しそうにぽっかりと口を開けていた。
ヤバイ。俺、売られちゃった。一体どうなるんだろう。

ぽっかり

オークションは終了したが、まだ会場の熱気は冷めきっていない。
壇上には俺を落札したカザック子爵が得意げな顔をして上がってきて、俺を二瞥する。

ん、中々に良い
買い物をした
これは素晴らしい
性奴隷になりそうだ

恐れ入ります
奴隷商としても一流の子爵に
褒め称えられる事
光栄の極みでございます

ん？ 今、カザック子爵の事を、奴隷商としても二流と言ったよな？
となれば、他にも色々なつながりを持っているかもしれない。
調査を進める上で、こいつに落札された事は幸運だったのかもしれないな。

では商品
をお受け取り下さい

っ…
あ…

俺は拘束されたポールから解放されたが、腰が抜けており立ち上がる事が出来ない。
カザック子爵はそんな俺の様子を満足気に眺めた後、
護衛として連れてきた護衛のオークに命令し、俺を持ち上げさせる。

よし、吾輩の奴隷を他の客に見せつけてやるのだ！

ウゴツ…

ひっ…!?
な、何をっ…!?

ひょいっ

オークは俺の両足を大きく広げた状態で抱え上げた。そうなれば当然、先程まで腕を突っ込まれていた俺のおまんこが客席に向けられる。腕で無理やり広げられ、半開きになって、愛液を垂れ流している、俺のおまんこがだ。ヤバイ、恥ずかしい。でもこうやって見られるの、めっちゃくちや興奮するな…。



あんなに美しい娘のおまんこがこんなにも開いて…

羨ましいですぞカザック子爵！

ふふん、そうである、そうである、！
では折角だ、この場でもう二度
シヨーを見せるとするかな？

シヨー…
って… 一体…

俺を競り落とし、独占した事で、カザック子爵は調子に乗っている。
この場で俺をもう犯すつもりなのだろうか。
コイツも俺に腕でも突っ込む気なのか？ それとも…。
俺は一体何をされるのか、色々妄想してドキドキしてしまう。

?

シヨ

シヨ

シヨ

シヨ

よし、それでは
腰ミノを取るのだ
オークよ

ウグウ…

ほき

ほき

ほき

ほき

えっ…？
あっ…！！

おお！
なんと立派な
一物よ！！

んんんん

オークはカザツク子爵の命令に従い、
その腰みのを脱ぎ落した。
その裏側には、まだ勃起していないにも関わらず、
山賊のペニス並みのサイズを誇る巨根があった。
まさか今から、俺はこのオークに犯されるのか？

む、勃起して
おらぬではないか
ほら、コレを飲め!!

ウゴツ…
ウゴオオオオツツ!!

ひゅー…?

勃起したペニス
中々にえげつないな
これは…

オークはカザツク子爵により何かの薬を飲まされた。
その直後、オークの目は血走り、
みるみるうちにそのペニス
が勃起していった。
特殊な形状の、それでいて
競り人の腕ほどもある、
巨大なペニスから、俺は
目が離せない。

ほら、しっかりと
ほぐしてそれを
受け入れるのだ

や、やめっ…
こんな大きいの…
入るわけっ…

あの娘、擦りあげられて
気持ち良くなっているのか？

異種族に対する
適正が高すぎる…

オークは勃起チンポを俺のオマンコに当てがい、
俺の体を軽く前後に揺すった。
ゴリゴリしたチンポが俺のオマンコをこすりあげ、
思わず小さい声漏れる。
ダメだ、欲しい。早く欲しい。もう我慢できな…

おっ
おっ

おっ
おっ

ほっ
おん
ほっ

ほっ
おん
ほっ

ほ

ほ

これはすごい
まるで獣同士の
交尾のようだ…!!

落札出来なかった事が
悔やまれる…!!

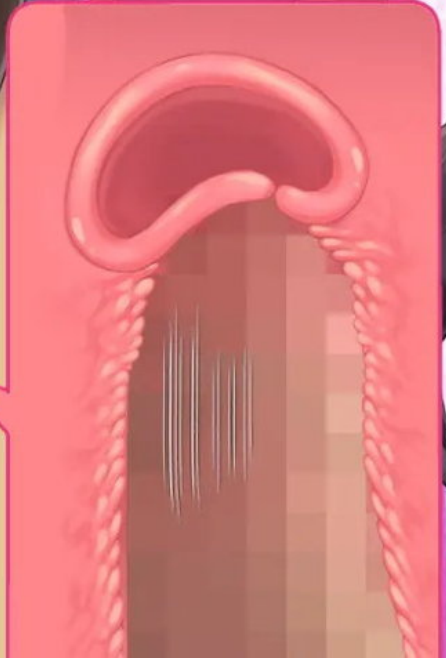
あっ!! あっ!!
ああああ!!

こんなにオナホ扱いされているのに。
こんなゲスな貴族達の見世物になっているのに。
こんな極太ペニスで限界を超えて広げられているのに。
気持ちいい。気持ち良すぎる。もう何も考えられない。

ポコッ

ズッ

ズッ



ひっ!? あっ!
ひっひっひっ!!

ブゴオオ!!

俺に深く突き刺したまま、子宮ばかりを突き上げてくる。
体もビクンビクンと腰を小刻みに突き上げている。
コイツ：射精が近いのかもしれない。
もしこんな状態で射精なんかされたら…
俺はどうなってしまっんだらう。
俺はその瞬間を迎えるべく、今までで一番強く膣を締め付けた。

?!
!!

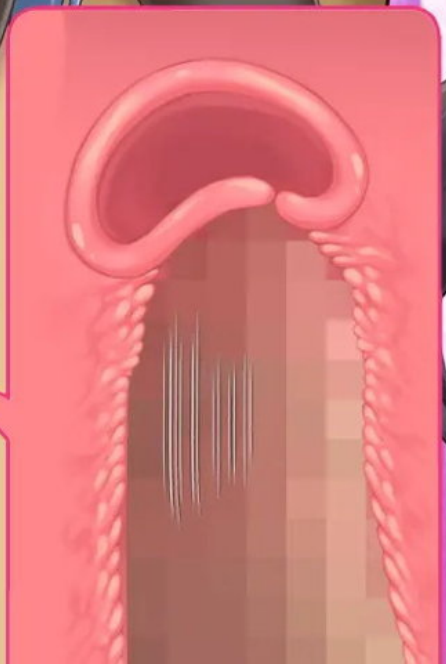
はっ
はっ

ポコッ

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ





ブゴオオオオオツツツ!!!

ひぎっ!!
あああああつっ!!!

パンッ

パンッ

あっ♡

あっ♡

はっ

はっ

ヒキッ

パンッ

ヒキッ

ポコッ
ポコッ

ズッ

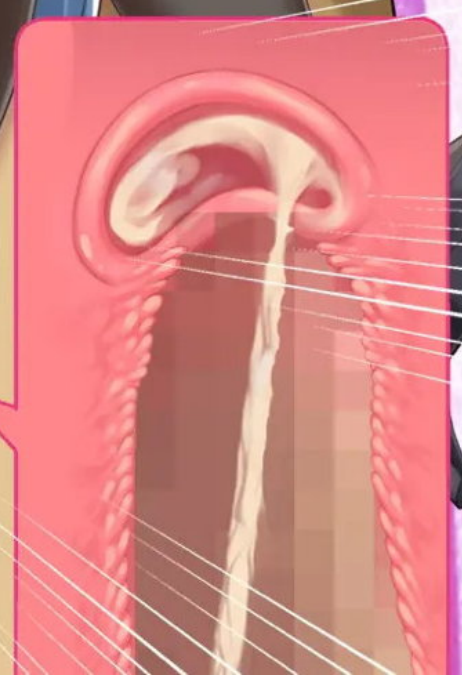
ズッ

ズッ

パンッ

ズッ

ヒキッ



おお、射精したか
こいつの射精は多いぞ？
買ったばかりで
壊れるでないぞ？

ブゴオオオオ
オオツツツツ……！

あっ！ あっ！！
ああああっ……！！

こいつ、俺の子宮の中でおしっこでもしているのかよ？
そう思うほどの、本当に蛇口が壊れた水道のように、
精液を流し込んで来る。
これがオークの射精なのか？
ヤバイ。子宮の中も頭の中も真っ白になる。



うぐっ！ あっ！
ひゅっ！！

おいおい、あのオーク
まだ出してるぞ…？

あの子、流石に
壊れるんじや
ないか…？

考えてみれば、オークって豚と人の亜人だったよな…
そりゃ精液の量も多いに決まってる。
子宮内部の精液は行き場を失い、俺の卵管にまで流れ込んで来ている。
こんな奥まで犯されるなんて…
俺は連続絶頂で所々意識を飛ばしながら、ひたすら喘いでいた。

じいっ

くっくっく…これは最高の
おもちゃが手に入ったな！
素晴らしい！

あ…え…

告。精神に過大な
負担がかかっています
しばらくオートモードに
移行します

頼んだ…
俺は少し休む…

牙狼族に犯されて、
少しは快楽に強くなったと思ったのだが、
そんな事は無かったようだ。
上には上がある事を思い知らされた。
俺は小刻みに痙攣する体の主導権を大賢者にゆだね、
精神の回復のため、少しの間眠りにつくのだった。



俺が大賢者のオートモードから目覚めると、カザック子爵の屋敷に連れ込まれていた。粗末な部屋の粗末なベッドで裸で寝かせられており、俺が異種族奴隷向けの性処理奴隷である事を思い知らされる。部屋にはメイド服のみがハンガーで吊るされている。着る物はこれしかない。

屋敷に到着した際、起床したら屋敷の清掃を行うよう命令を与えられました。

なるほど、だからメイド服か出来れば下着も用意しておいて欲しかったな

俺はスカート丈の短いメイド服に袖を通す。ノーパンでこんなメイド服を着ていたら、掃除している最中にオマンコが丸見えになるじゃないか。まあそういう見世物的な要素を期待してのこの格好なのだろうけど。俺は少しドキドキしつつ、カザック子爵に与えられていた館内清掃に手を付けた。



清掃業務終了致しました。
休憩する事を推奨します。

ああわかった
流石にちよっと
疲れたな…
精神的に…

こんな短いスカートのメイド服でノーパンなんて、
台座に乗って窓を拭いたり、床の雑巾掛けしたり…。
掃除の間、周囲の視線がずっと俺に突き刺さっていた。
その視線は、性奴隷として買われた俺に対する哀れみと、
そして欲情に満ちたモノだ。
当然、俺の子宮は素直に反応して興奮するわけで…
掃除が終わる頃にはすっかり発情してしまっていた。

クケケケッ：
才前、新入りダナ？
ソナナ恰好デ掃除
スルナンテ、変態ダナ

こ、この格好は
カザツク子爵に
命じられてやって
いるだけで…

俺が部屋で休憩していると、ノックも無しにゴブリンが部屋へと入り込んで来た。ゴブリンはニヤニヤと笑みを浮かべ、腰ミノにテントを張りながら近づいてくる。この屋敷には俺以外にも奴隷がいて、奴隷ゴブリンの仕事は雑用がメインで、俺の掃除中にも何度か視線を感じた。俺が休憩に入る所を見計らって、俺に接触しに来たのだろう。

カザック様カラ聞イテルゼ
才前、性処理メイドナンドロ？

うっ…
そ、そうですね…

明らかに俺より弱っちいゴブリンが、その粗末なペニスを露出させ、俺に見せつけた。
ロクに洗っていないのか、強烈なオスの獣臭が俺の鼻孔に突き刺さる。
でも、そんなチンポを見ていると、俺の子宮はメスらしく疼いてしまう。
まさかゴブリン相手に興奮するなんて…。
俺は寝そべったゴブリンの上にまたがった。

んっ？
あ？！

俺は勃起したゴブリンのチンポに、
自らの割れ目をこすりつけた。
オマンコからあふれ出す愛液を、
ゴブリンのチンポに満遍なくまぶしていく。
腰を前後に動かしながら、
ゴブリンのチンポにオマンコを擦りつけていると、
さらに愛液が溢れ出してくる。
ヤバイ、もう我慢できない……！
俺は軽く腰を浮かし、それを飲み込んだ。

んっ、
んっ、
んっ、

んっ

んっ

クケケツ……！
シツカリ愛液ヲ
塗り付ケテクレヨ……！

んっ…
あああ あっっっ!!!!

お尻っっっ♡

ウオオオツ!?



俺ガ命令スル前二
入レルトハ
ソシナニチンポガ
欲シカッタノカ？

うっ…
そ、それは…

ゴブリンにそう指摘され、凶星を付かれた俺は思わず赤面した。
これじゃまるで、ゴブリンが俺を犯してるのではなく、
俺がゴブリンを犯してるみたいじゃないか。
でも実際、チンポが欲しくてたまらなかつた。
これが入ってる時が一番気持ちいいんだから。
まさか俺がチンポの味を覚えるとは…
俺はさらに深く腰を沈み込ませ、その形を堪能する。

おほんっ♡



ホラ、イツマデ
座り込んでルンダ
サツサト動ケ

っ?
わ、わかってますっ?
んんっ!!

チンポを啜えこんで恍惚としていた俺に、ゴブリンが催促をする。
俺はあわてて腰を前後左右に動かし、ゴブリンのチンポを擦りあげていく。
柔らかい膣肉が、硬いゴブリンチンポによって、ゴリゴリと変形させられる。
ヤバい、めっちゃくちゃ気持ちいい。腰が止まらない。



クケケツ!!
ソシナニ腰振ツテ
俺ノチンポガ
気持チイイノカ?

うっ...
ち、チンポ
気持ちいい...
ですっ...

ゴブリンは、俺のような美少女が自分のチンポに屈した事が、何より気持ちいいという顔をしている。そりゃそうだ。俺だって俺みたいな美少女相手に、童貞を捨てたかったさ。でも今の俺は転生してスライムになり、そして今は女の体になっているのだ。だったら女としての性活を、この気持ち良さを堪能するしかないじゃないか。



あゝ♡

クツッ……！
コンナニ絡ミツカレチャ
モウ我慢デキネエゾ！！

っ……ふ、服が汚れるから……
中を出して下さいっ……！

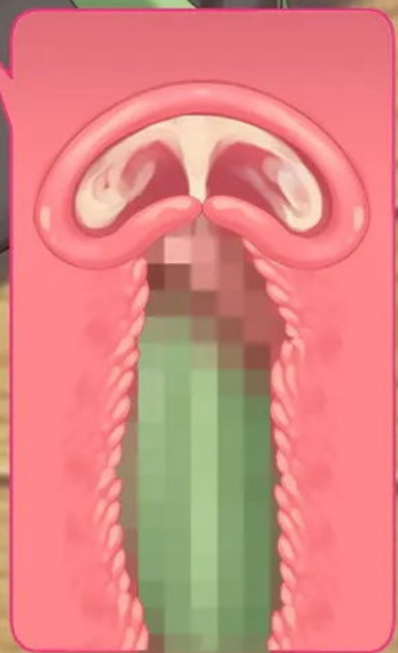
服が汚れるから中に出して欲しい。
自分で言うておいてなんだが、無理のある理由だ。
ただ単に、子宮内に射精されるあの感覚を味わいたいだけだ。
もう俺の子宮はそれに備えて、子宮口を半開きにして精液を待ち構えている。
そしてゴブリンの体はそれに応えるようにピクンと跳ね上がり……



ひっ…
あっ…!!

粘り気の強いゴブリンの精液が、俺の子宮に大量に流れ込んでくる。これこれ、子宮が汚されていくような、この感覚が気持ちいいんだよな…。この粘り気の強さが、メスを絶対に孕ませるといふ感じがあつて、めちやくちや気持ちいい。ゴブリンの精液で子宮を満たされながら、俺は喘ぎ声を漏らしながら絶頂してしまった。

クツソ…
コイツ滅茶苦茶搾り
取ッて来ルジャネエカ…!!



はあっ…
はあっ…

ゴブリンから精液を絞りつくした所で、俺はゴブリンの上から降りた。俺のオマンコからは、ゴブリンの精液が糸を引きながら溢れ、床に水たまりを作る。俺がそれをポーっと眺めていると、廊下から何人もの声が聞こえてきた。集まってきたのは他のゴブリン達だった。俺達の声が丸聞こえだったらしい。

ヤッベエナコイツ…
コンナニ搾り
取ラレルトハ…



ケケッ！コンナ所デ
ヤッテヤガッタハ！

次ハ俺ノ番ダ
ホラ、サツサト
相手シヤガレ
コノ性奴隷ガヨ

わ、わかりました…
順番に並んでください…

ゴブリン達は次々にチンポを出して
俺に見せつけてきた。
ヤバイ、さっきイッたばかりなのに、
こんなの見せ付けられたら、俺もう…。

ナンダコイツ、
コンナ美少女デ
エロスギルダロ

うおおおっつ!!
すげえ締め付け!!
やべえなコイツ!!

ひっ...!
んっ...!
ああああっつ!!

それから俺は、集まって来たゴブリンの相手を順番にしていって、
どのゴブリンも性欲旺盛で、俺の膣内を堪能した後、
たっぷりと精液を吐き出してくれた。ヤバい、気持ち良すぎる。
早く全員から一滴残らず精液を搾り取ってやりたい。
俺はそんな事を考えながら、
日が暮れるまでゴブリン達の相手を続けたのだった。

カザック子爵に買われ、屋敷の性奴隷としてゴブリン達の奉仕をすること数日。その間にも、掃除を兼ねて各部屋を調べたり、夜な夜なスライム形態で調査を重ねて行った。その結果、カザック子爵が関与する人身売買に関する書類が大量に見つかった。これがあれば、人身売買組織を二網打尽に出来るだろう。そんな事を考えている時だった。

よし、そうと決まれば
こんな所には用はないな
さっさと帰ってソウエイ達に…

おお、こんな所に居たか
清掃はもういいから
こっちに來い
面白い物を見せてやる

へっ…?
し、子爵様!?
一体何なのですか?

俺は咄嗟に書類を暴食者のスキルで隠した。危ない危ない…油断していてバレる所だった。カザック子爵は嬉しそうな顔をして俺の腕を引っ張り、屋敷の外へと連れていく。今度は何をさせる気なのだろうか？俺は少し期待しながら、子爵の後を付いて行った。

そして俺は、中庭にある
厩舎へと連れて来られた。
馬の獣臭が充満し鼻を衝く。

清掃はもう良いと
言っただろう、ほら
その壁に手を付けて
こちらに尻を向けよ

…ここは厩舎ですよね？
厩舎の清掃をすれば
良いのですか？

は、は、は…
これでよろしい
でしょうか？

うむうむ…！
あれだけゴブリン共に
犯されてまだ綺麗な
マンコをしておるな

？

カザック子爵は俺のオマンコを満足気に眺めた後、その指を伸ばした。

ひっ!!
し、子爵様っ…
お手が汚れます…!!

ふむ、見た目はともかく
すっかり緩くなつて
いるようだな?

解。周囲に
怪しまれないよう
少しづつ性器の形状を
変更しております。

えっ…?
ゆ、緩くっ…??
スライムボディで
そんな事ある??

ええっ…
そういう所のこだわり
凄いやね大賢者さん!!

これなら壊れる
心配は無からう
それでは吾輩の
新しいコレクションの
お披露目をしてやる！

新しい
コレクション…？

？

カザック子爵は奴隷に命じて、厩舎の奥から二頭の馬…
翼の生えた馬を連れてきた。
これ、ペガサスじゃないか！
テンペストとも交流がある武装国家ドワルゴン、
その国王率いる精鋭部隊が乗る幻獣だ。
そんな貴重な幻獣を手に入れるなんて…
こいつの人脈を少し甘く見ていたかもしれない。

俺がそんな事を考えている時だった。
カザック子爵が二服盛った瞬間、
ペガサスの股間がみるみるうちに
勃起し始めたのだ。

ほほう、やはり
馬並と言った所か
立派なモノであろう？

ひゅっ!!

すっ、

すっ、

いやいや、これ男の腕を遥かに
超える巨大さじゃないか!
まさかコイツ、こんな
えぐい相手とやらせようって
言うんじゃないだろうか?

それではお前に
褒美を与える
この女を好きにだけ
犯すが良い

ブルルルルツ!!

えっ!!
まっ!!
待って!!!

すい、

ズい

ズい

興奮したペガサスは俺の膣口に先端をあてがい、
中へとねじ込もうとする。
しかしあまりに巨大なペニスは中々刺さらず、
愛液で滑って、何度も俺のオマンコを擦りあげる。
ヤバイ…この愛撫はヤバイ。
中に欲しくなっちゃうじゃないか。
そう思っていた直後…。



了。ペガサスの
ペニスを挿入すべく、
腰位置を調整します。

ちよっ…まっ…!!
あぁあぁあっつ!!…!!

9/11

ビビーン!!

あがっ…!!
あああっっ…!!

アッポッ

ペガサスの長大なペニスは、俺の子宮口を貫き、
一気に子宮内部へと入り込んだ。
俺を犯して征服欲を満たしたのか、
ペガサスは得意げに二声いなないた。
ペガサスはそのまま、野生の本能むき出しのまま、
俺の子宮をガンガン突き上げる。
ものすごい圧迫感。
でも：すっかり開発された俺の体は、
それを快楽と受け止めてしまう。

はっはっは!! まさか
ペガサスのペニスを
受け入れられるとは!
素晴らしい!

ひぐっ!!
ぬ、抜いて?!

ぎぢ

ぎぢ

こいつ：他人事だと思って好き勝手な事言いやがって。
カザックは目を白黒させている俺を気づかう事もなく、
目の前の光景に大喜びしている。
後で絶対覚えてろよ：
でも今はそれより、このチンポの刺激に耐える方が優先だ。
そして俺が必死に耐えていた時の事、
いきなりその瞬間はやってきたのだ。



ペガサスが射精した。とんでもない量だ。子宮の中で何かが爆発したかと思った。ただでさえ強烈な刺激に、精液の勢いが追加され、俺は二瞬で絶頂してしまう。

おお、もう出したのか
ほら、たっぷり出して
スツキリするが良いぞ

あぐひ
っっっ
!!

ペガサスに射精され、子宮内をパンパンにされ、強制絶頂に息も絶え絶えな俺。しかし射精はまだ終わらない。ペガサスはさらに腰を突き上げ、俺の中に精液を吐き出し続ける。



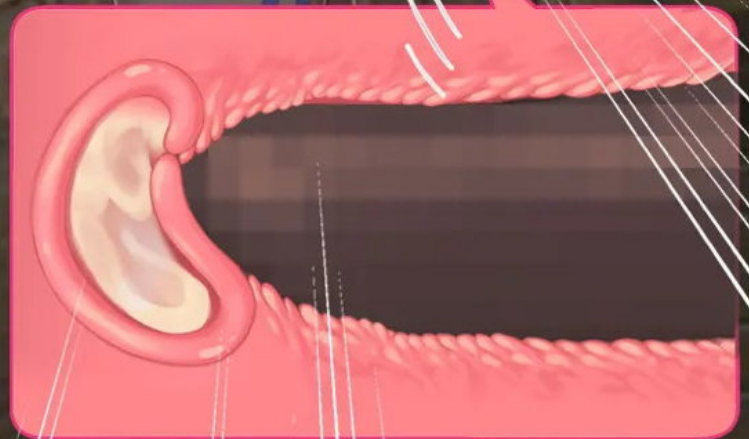
フツッ！！
フツッ！！

ひざっつ！！
あああつっ！！

サ
の
ビ
ュ
ッ

サ
の
ビ
ュ
ッ

あれから数分、射精はまだ続いている。
本当に水道のように精液が出ている。
精液は俺の子宮を満たし、卵管に流れ込み、
そして膣の隙間から外へと噴き出していく。
気持ちいい。気持ち良すぎる。
もう頭の中が真っ白で、気持ちいい以外思いつかない。
俺はひたすら悲鳴のような嬌声を上げて、
ペガサスの精液を搾り取って行った。





ブルルルツツ...

はあ？
はあ？
はあ？
はあ？

射精が終わり、萎えたチンポがずるりと俺のオマンコから抜け落ちた。萎えたとは言え、人間やゴブリンとは比べ物にならないサイズのペニス。そんな極太の柱を失った膣からは、大量の精液がびちゃびちゃと音を立ててあふれ出す。お漏らしとか、そういうレベルじゃない量の精液を、まるで他人事のように眺めていた。

よし、ペガサスも満足したようだな
おい、溢れた精液はきちんと掃除しておくのだぞ？

は、はい…

ペガサスの射精が終わった所で、満足げな笑みを浮かべて、カザック子爵は厩舎を出て行った。
そりゃ俺みたいな美少女が、ペガサスに犯されてる所を見れたんだ。
絶対に満足するだろうさ。それにしても…
ペガサスに犯されるのはすごかったな。
あんなにヤバイとは…。俺はいまだに溢れ続ける精液と、ぽっかり開いた膣口から入る空気の冷たさを、心地よく感じた。



告。現時点の情報では
ペガサスの入手経路が不明です。
調査の続行を推奨します。

…そうだな
そっちも調べて
おかないとダメだよな…

絶頂の余韻でいまだ体を動かせない俺に、大賢者がそう告げた。
調査を続行するという事は、つまり、
まだまだゴブリンやペガサスに犯される機会があるという事だ。
いや、もしかしたら他の幻獣に犯される事だって
あるのかもしれない。俺はそんな事を期待し、
イッたばかりの子宮が疼き始めているのを感じていた。